

皆さんと同じ
組合員が
書いてるよ!

組合員の手作りニュース



ポツブコーン

5月号

2016年4月25日発行

発行 川崎エリア経営会議

問合せ 地域活動支援課

TEL 045-470-6863

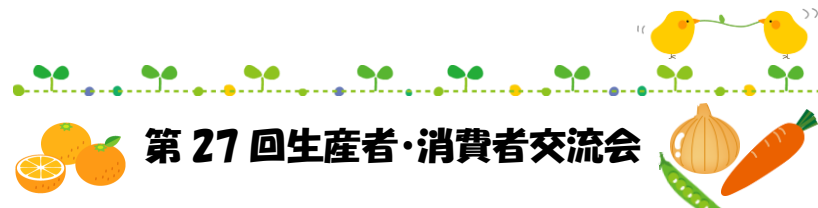
2016年度の活動テーマ つながろう産地 伝えようほんものの良さ

川崎エリア経営会議

年間おすすめ商品



2016年度の川崎エリア経営会議のおすすめ商品は、ずばり『産直こめたまご』です！
みなさんは『産直こめたまご』をご存じでしょうか。こめたまご、というのはエサに20%以上米を配合したエサで育てた親鶏の卵です。
パルシステムの卵は、親鶏の健康を考えた安全・安心な卵です。なかでも川崎エリア経営会議では、年間をとおして『産直こめたまご』をおすすめしていく予定です！
こちらのエリアニュースにて、レシピなどもご紹介しながら、『産直こめたまご』の魅力をたっぷりお伝えしていきますので、みなさんどうぞお楽しみに！！(S.W.)



第27回生産者・消費者交流会

3月4日(金)、オークラフロンティアホテル海老名で開催された、第27回生産者・消費者交流会へ行ってきました。45の産地から、生産者の方々にお集まりいただき、交流を深めました。当日は、生産者・消費者で行なう伝言ゲームがあり、和やかな雰囲気スタートしました。
交流タイムでは、日頃疑問に思っていることをお互いに質問したり、生産者・消費者双方にとって生の声を聞ける貴重な機会となったと思います。
また、昼食はパルシステムの食材を使って、オークラフロンティアホテルに、産直つながる弁当を作っていました。産直のフルーツバイキングもあり、どのお料理も果物も、本当においしくて感激しました。
全体をとおして、安全・安心な品を提供するために、生産者の方たちの努力や熱意がとても伝わってきた、大変有意義な交流会でした。
(S.W.)



麻生センター便り

～太陽光発電が完成しました！～

麻生センター屋上に太陽光パネルが設置され、2月22日より発電が開始されました。センターでは、商品を保管する冷蔵・冷凍庫等、常に電力を消費しています。今回の設置は、売電は行わず、発電された電気はすべてセンターで消費します。これを機により電気を大切に使用したいと思います。



麻生センター
入口正面に設置されたパネル。リアルタイムで発電量が表示されます。

活動報告
その1

浜の母さん料理教室

～川崎エリア経営会議～

2月11日(木)、てくのかわさき料理室にて、「浜の母さん料理教室」を開催しました。

まずは野付のお話を野付漁協と北海道漁連の方よりお聞きしました。野付漁協は昔から資源循環、環境保全型の漁業をすすめる、「獲る漁業から育てる漁業」への取り組みを行っているそうです。森を育てることで、海も豊かになることを学ぶことができました。

野付のおいしい海の幸のルールを学んだあとは、おいしい野付の食材を味わう料理教室です。野付漁協女性生産者のみなさんによる海の料理は、素材のよさはもちろんのこと、お母さんたちの手際のよさが光っていました！ホタテの殻むきに苦戦していると、「こうやるといいんだよ」とササッと簡単にむいてしまうカッコよさ！不器用な私は、生産者のみなさんが一生懸命育ててくださったほたてを少し不格好にしてみました。味はもちろん最高でした！野付の海の幸をこれからも食べて応援したいと思った料理教室でした。(K.K.)



活動報告
その2

手作り豆腐教室

～高津地区くらびF&F～

2月9日(水)、てくのかわさきにて共生食品(株)から講師をお招きし「手作り豆腐教室」を開催、15名が参加しました。

鍋に濃厚な豆乳とにがりを加えて寄せ豆腐・木枠を使って木綿豆腐・麻婆豆腐を作りました。できたては格別においしく、同じように作っているのに、鍋ごとに微妙に味が違い驚きでした。鍋の温度・かき混ぜ方などで味が異なってくるそうです。講師が作った寄せ豆腐は特別になめらかでお豆の味を感じられ、お腹いっぱいなのにもっと食べたい！市販の豆腐は、もう食べられないかもと思いました。また、おいしい湯豆腐の作り方や共生食品が作っているうどんのおすすめレシピを教えてください、楽しいお話を聞きながらのあっという間の2時間でした☆(M.A.)



おいしく食べたら、パルシステムに返してね!

トマトの箱、いちごの箱は回収しています!

パルシステムでは、トマトやいちごの段ボール箱を再利用(リユース)しているって知っていますか?
返却個数が少なく困っています。とくに1kg用の箱は、回収率が低い状況です。
みなさんのご協力をお願いします。



折りたたんでお戻しください

回収にご協力お願いいたします。



【編集後記】 昨年度に引き続き、川崎エリア経営会議では今年度も小田原産地交流を予定しています。3月に行われた生産者・消費者交流会でもそうですが、顔の見える関係が安心や信頼につながり支え合う喜びを実感させてくれるのだと感じます。
さて、昨年度の小田原交流みかん狩り体験の際、カブトムシの幼虫探しに夢中だったわが家の子どもたち。世話をしているのはもっぱら夫、毎日動き回る幼虫がかわいくて仕方がない様子です。成虫になったら小田原の森へ返そうかなと思っています。(S.W.)

